

<http://aikotobaha.blogspot.jp/2011/02/rhel6-7cronanacron.html>

anacron について

cron をサポートするような機能。

cron は起動すると一分おきに crontab を見に行き、起動条件に合致するものがあればそれを実行する。しかし、cron が起動していない時間は無視されてしまう。

例えば、毎日 23:00 にあるバッチを起動しているとする。何かの理由で 22:55 ~ 23:05 の間、サーバをメンテナンス等で止めたとする。

この場合、当然ながらバッチは起動されない。これはこれで正しい動作なのだが、それでは困る場合に anacron へ設定を入れておくことでシステム起動後にバッチを遅延起動させる事ができる。

設定の書き方

```
1      65      cron.daily      run-parts /etc/cron.daily
```

- ・ 1 カラム目

何日おきに実行するか？

- ・ 2 カラム目

1 カラム目で指定された期間実行されていなかった事を知った場合、次に処理を実行する場合の遅延時間

- ・ 3 カラム目

識別子 /var/spool/anacron 以下のこの名前のファイルが作成される。anacron は処理を実行するとこのファイルに実行された日付を書き込む

- ・ 4 カラム目

実行する処理

run-parts

```
run-parts
```

は指定したディレクトリにある実行可能なファイルを実行するコマンドだが、実行権限やファイル名によっては実行されないのに注意。

実行されるかどうかは

```
run-parts --test /etc/cron.daily
```

または

```
run-parts --list /etc/cron.daily
```

で確認できる。

CentOS5 と CentOS6 の cron の動きの違い

RHEL5 までは cron.{daily|weekly|monthly} 以下の実行スクリプトは、crontab にて指定された時間に実行されていたが、RHEL6 からは全て anacron 配下に置かれている。

そのほか、RHEL5 で anacron は個別のサービスとして登録されていたが、RHEL6 では cron によって制御されている